



JPN Class

Online school - 日本語で学ぼう

中学

国語一年

一月 第②週

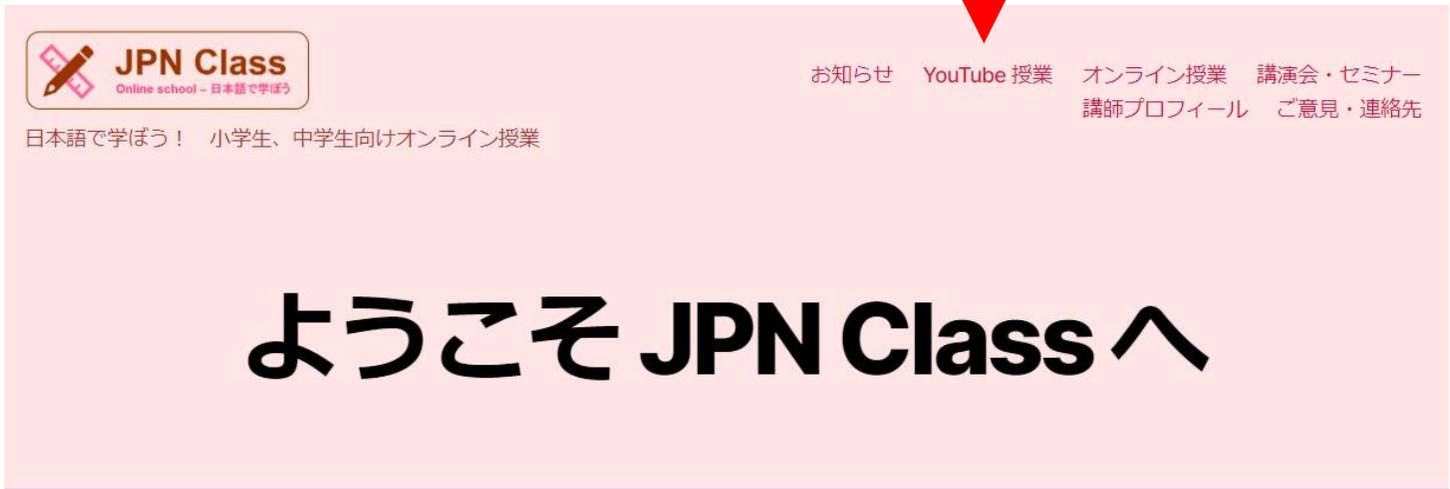
冬休み一回





印刷の仕方

1. Webページ <http://JPNCClass.com> へ行きましょう。
2. YouTube授業をクリックしましょう。



ようこそ JPNC Class へ

JPNCClassは、海外に暮らす子どもたちとご家族をサポートする目的で開設されました。子どもたちにオンラインでの国語などの授業を提供します。また、ご家族と海外での日本語教育や子育てについて共に考える講演会やセミナーを開催します。

授業は、オンライン授業 (Zoom)、ビデオ (Youtube)を通して提供します。現在お住まいの地域に日本語補習校など日本語を学ぶ学校がない、行く時間がない、あるいは自分のペースで日本語の勉強を進めたいといった子どもたちに最適です。

詳しくは、オンライン授業、YouTube授業、講演会・セミナーのページをご覧ください。

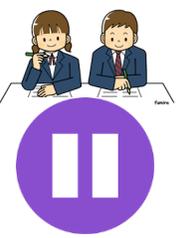


②必ず用意してください

- ・国語のノートと漢字ノート
- ・筆記用具（赤ペン、赤えんぴつも必要）

③気をつけること

- ・大事だと思うところはノートに書いてください。
- ・「ビデオを止めてください。」と言われたら、ビデオを止めて、先生の指示にしたがってください。



- ・必要があるときは、ビデオを止めた
り、もう一度ビデオを見たりしてく
ださい。

- ・授業で使っているスライドを、印刷した
い人は、①と同じように **Webページ**

<http://JPNClass.com>

からできます。

先週の宿題

1. 漢字

新しい漢字の練習をしましょう。

2. 音読

「江戸からのメッセージ」を読みましょう。

3. 筆者の主張

「江戸からのメッセージ」の筆者の主張を、確認しておきましょう。

筆者の主張

与えられた空間の中で、物を大切にし、互いに助け合って生活していく共同意識をもっていた江戸っ子たちの暮らしには、「心の豊かさ」があった。わたしたちはそこから今の「物の豊かさ」について考え、「心の豊かさ」というメッセージを受け取ることができる。

漢字テスト①

漢字の読み方を書きましよう。

- (1) 江戸時代は二百六十年におよぶ。
- (2) 狭い空間にひしめき合って暮らす。
- (3) かなり窮屈な暮らしであった。
- (4) 人と人の広範囲で強いつながり。
- (5) 売った物の修理も請け負った。
- (6) 修繕専門の店。
- (7) 火鉢に残った灰を使う。
- (8) 灰の汁で煮ると光沢が出る。
- (9) 自分たちに与えられた空間。
- (10) 鼻緒が傷む。



漢字テスト①

漢字の読み方を書きましよう。

答え合わせをしましょう。

- (1) 江戸時代は二百六十年におよぶ。 えど
- (2) 狭い空間にひしめき合って暮らす。せまい
- (3) かなり窮屈な暮らしであった。 きゆうくつ
- (4) 人と人の広範囲で強いつながり。 こうはんい
- (5) 売った物の修理も請け負った。 うけ
- (6) 修繕専門の店。 しゅぜんせんもん
- (7) 火鉢に残った灰を使う。 ひばち
- (8) 灰の汁で煮ると光沢が出る。 にる / こうたく
- (9) 自分たちに与えられた空間。 あたえ
- (10) 鼻緒が傷む。 いたむ

漢字テスト② 一線の漢字を書きましよう。

- (1) えどじだいは二百六十年におよぶ。
- (2) せまい空間にひしめき合って暮らす。
- (3) かなりきゆうくつな暮らしであった。
- (4) 人と人のこうはんいで強いつながり。
- (5) 売った物の修理もうけおった。
- (6) しゅうぜんせんもんの店。
- (7) ひばちに残った灰を使う。
- (8) 灰の汁でにるところたくが出る。
- (9) 自分たちにあたえられた空間。
- (10) 鼻緒がいたむ。



漢字テスト② ー線の漢字を書きましよう。

答え合わせをしましょう。

- (1) えどじだいは二百六十年におよぶ。江戸時代
- (2) せまい空間にひしめき合って暮らす。狭い
- (3) かなりきゆうくつな暮らしであった。窮屈
- (4) 人と人のこうはんいで強いつながり。広範囲
- (5) 売った物の修理もうけおった。請け負った
- (6) しゅうぜんせんもんの店。修繕専門
- (7) ひばちに残った灰を使う。火鉢
- (8) 灰の汁でにるとこうたくが出る。煮る／光沢
- (9) 自分たちにあたえられた空間。与えられた
- (10) 鼻緒がいたむ。傷む



① 江戸時代は、二世紀という長い間、平和が続いた時代である。同時代の西欧諸国が、戦乱に明け暮れながら近代を招いたのに比べれば、二百六十年におよぶ江戸の歳月は、驚異的なことだといえるだろう。

長く続いた平和は、生活の工夫に満ちた魅力あふれる「江戸」という町をつくり出した。
 ② 「江戸っ子」とよばれる庶民の日常生活をのぞき、その暮らしぶりから、現代のわたしたちの生活を見つめ直してみよう。

江戸の町人たちは、狭い空間にひしめき合って暮らしていた。③ 江戸後期の町人地の人口密度は、一平方キロメートル当たり、約六万七千人であったといわれている。これは、現在の東京二十三区の人口密度の約五倍であり、かなり窮屈な暮らしであったことがわかる。

④ そうした狭い町人地の中で、江戸っ子たちは、長屋とよばれる簡易住居に住んでいた。住んでいたといっても、当時の長屋は居住性を求める家というよりは、寝室として、ほとんど寝るときにだけ戻るといような場所であった。

⑤ では、寝るとき以外の生活はどのようにしていたかというと、食事をするダイニングルームは町なかの屋台を利用し、⑥ 応接間は湯屋の二階座敷、⑦ ミーティングルームは髪結い床の土間、日用品は歩くコンビニエンスストアとしての「振り売り」を利用するというふう

⑧ に、八百八町といわれた江戸の町全体を自分の家のように使いこなす機能的な暮らし方をしてきた人が多かったのである。そこには、人と人との広範囲で強いつながりがあった。

《新しい漢字》

江戸

狭い

窮屈

範囲

30

25

20

15

江戸時代の代表的な盛り場の一つであった、両国橋西側のたもとの様子。



江戸の町は、物売りの声やさまざまな人々の往来でにぎわっていた。
 「石町大道彙図」 葛飾北斎



江戸の町には、たくさんの商店が店を構えていたが、振り売りの声もあふれていた。日用品のほとんどは振り売りがあつかつており、売り歩いているところを呼び止めて気軽に購入することができた。彼らは、売ったものの修理も請け負った、さらに、修繕専門の「直し屋」という振り売りもいた。直し屋は、「物」の数だけそろっており、みなすばらしい技術をもった人ばかりだった。

江戸っ子たちは、物の背後に、作り手、売り手、直し手の三つの顔を見ていたのである。だからこそ物を大切に使ったのである。

江戸では、ほとんどの家財道具は一生もので、どんな道具でも、ごみとして捨ててしまふことはなかった。江戸の基本理念は「もつたいたいない」であり、リサイクルはあたりまえという合理的な生活習慣を身につけていたのである。

江戸っ子は幼少時代から、「残る物」を購入する場合は三度考えて買え、としつけられた。店に通つて買うかどうかを迷い、もし、その間に売れてしまえば縁がないとあきらめるのである。そして、買ったあとは、その物が形がなくなるまで修繕をくり返し、とことん使い切ってきた。収入に比して物の値段がとて高価だった江戸では、衝動買いは最もいさめられるべきことだったのである。

なべに穴が空けば鑄掛屋に頼んでふさぎ、さらに使えなくなれば古金屋に下げ渡して資源とした。下駄の歯が減ったら歯だけを入れ替え、鼻緒が痛んだら鼻緒をすげ替え、ついに下駄本体が割れたら薪にして燃料とした。また、浴衣であれば、少し古くなつたら赤ちゃんのおしめにし、それが古くなつたら雑巾に、それもだめになつたらさいて縄や敷物に編んだり、よつて鼻緒の芯にししたりした。ここまで使いきり、それがぼろぼろになって果てれば、火にくべる燃料とした。



長屋の入り口（式亭三馬「浮世床」挿絵）



さらに、江戸っ子たちは、最後に残った灰までも利用する。かまどや火鉢に残った灰は、「灰買い」という業者が買い取っていった。その灰は、畑の土をよくし、作物を大きく育てる肥料となったり、わかめなどの海産物を5灰にまぶして干す「灰干し」の生産に用いられたりした。絹や綿や麻あまなどの糸作りも、灰の汁しるで煮ると光沢が出てやわらかくなる。そのほかにも、酒造、紙すき、染色、洗剤など、灰は無数の用途があり、余すことなく利用された。

江戸時代の道具は、金物、木、布、紙など、どれも天然素材であった。金物は煮とかせば何度でも再生がきき、それ以外の物は最終的に植物性のきれいな灰となった。まめなりサ15イクルをする江戸の心がけもさることながら、このように、道具をはじめとする身の回りの物がすべて再利用できる素材で作られていたというのも、今との大きな違いであろう。

物に囲まれ、豊かで便利な時代に暮らす私たちは、一応半世紀の平和の中にいる。二世世紀の平和を保った江戸時代のように、あと二百年後の子孫たちは、今のわたしたちの暮らしをどう見るのだろうか。逆に江戸っ子たちが、こちらの側の生活をのぞいたならば、電気や、飛行機などの現代の便利な機器をうらやましがらるだろうか。さまざまな想像がふくらんでくる。

二百年前の江戸の暮らしをほんの一部だけのぞいてみた。江戸っ子たちの暮らしぶりは、物があふれるわたしたちの生活と比較ひかくしてみると「豊か」とはいえないかもしれない。

しかし、長屋暮らしという自分たちに与えられた空間の中で、物を大切にし、互いに助け合って生活していく共同意識をもっていた江戸っ子たちの暮らしには、「心の豊かさ」があったといえるだろう。

《新しい漢字》

火鉢バチ(ハチ)

煮るに

光沢タダク

与えるあた



髪結床の様子。店の奥では、客たちが歓談しながら待っている。(式亭三馬「浮世床」挿絵)





過去から現代、そして未来へと暮らしは変化していくが、人々の心は同じはずである。江戸の生活の中から、わたしたちは、今のわたしたちの「物の豊かさ」について考えることができる。そして、同時に、ともすれば忘れがちな「心の豊かさ」というイメージを受け取ることができるのである。

①江戸時代とくがわいえやす 徳川家康が江戸に幕府を開いたとき（一六〇二）から、

徳川慶喜が大政を奉還ほうかん（一八六七）するまでの約二百六十年間をいう。徳川氏が政権を握り、幕府を江戸においていた時代。

②江戸っ子こ 主に町人の場合がいい、江戸で生まれ、江戸で育った人を指す。

③江戸後期の・・・ 〓このころの江戸の人口は百二十万人に達していたといわれている。市街地面積の約八〇パーセント以上は武家地（武家の所有地）・寺社地（寺社の所有地）で、その地域の人口は約七十万弱。これに対して、全体の二〇パーセント以下の面積の町人地（町人の居住地）に残りの五十万人強が住んでいた。

④長屋むね 一つの棟に数戸の世帯が入っていた。狭い土地に町人が多く生活する江戸においては、代表的な庶民住宅だった。

⑤屋台 道端や門前などに、屋根をかけて立ち売りの商売をする簡単な店。主に、すし、てんぷらが売られていたほか、汁粉や大福餅だいふくもち、うなぎのかば焼きなどの店もあった。

⑥湯屋 代金を取って入浴させる公衆浴場。二回座敷は休憩所きゅうけいじよになっており、町人たちの社交場としての役割を果たしていた。

⑦髪結床 男性の髪を結び、ひげ、月代さかやき（成人男子が額から頭上にかけて髪をそること。またその部分。）などをそる店。早朝から夜まで営業していたため、町内の集会所のような役割を果たしていた。

⑧振り売り 物を提げたり担になったりして、町から町へ呼び声を上げながら売り歩く人。

⑨八百八町 江戸の町全体。江戸の市中に町の数多くあることをいう話。

⑩ 鑄掛屋 なべ、かまどなどの金属製の器具の傷んだ部分を、はんだなどで修理する職業。

⑪ 古金屋 古鉄を売買する職業。また、古道具屋のこと。

筆者の考えを読み取りましょう。

江戸時代は、二世紀という長い間、平和が続いた時代である。同時代の西欧諸国が、戦乱に明け暮れながら近代を招いたのに比べれば、二百六十年におよぶ江戸の歳月は、驚異的なことだといえるだろう。

長く続いた平和は、生活の工夫に満ちた魅力あふれる「江戸」という町をつくり出した。「江戸っ子」とよばれる庶民の日常生活をのぞき、その暮らしぶりから、現代のわたしたちの生活を見つめ直してみよう。

江戸の町人たちは、狭い空間にひしめき合って暮らしていた。江戸後期の町人地の人口密度は、一平方キロメートル当たり、約六万七千人であったといわれている。これは、現在の東京二十三区の人口密度の約五倍であり、かなり窮屈な暮らしであったことがわかる。

そうした狭い町人地の中で、江戸っ子たちは、**①長屋**とよばれる簡易住居に住んでいた。住んでいたといっても、当時の長屋は居住性を求める家というよりは、寝室として、ほとんど寝るときにだけ戻るといふような場所であった。

(1) 筆者が、この文章を通して考えようとしていることは何ですか。それが提示されている一文を、第二段落までの中から見つけてみましょう。

(2) 線①「長屋」は、江戸っ子たちにとってどんな場所だったのですか。文章中から二十五字以上三十字以内で見つけてみましょう。



では、寝るとき以外の生活はどのようなにしていたかというところ、^①食事を
するダイニングルームは町なかの屋台を利用し、応接間は湯屋の二
階座敷、ミーティングルームは髪結い床の土間、日用品は歩くコンビ
ニエンスストアとしての「振り売り」を利用するというふうには、八百
八町といわれた江戸の町全体を自分の家のように使いこなす機能的な
暮らし方をしていた人が多かったのである。そこには、人と人との広
範囲で強いつながりがあった。

江戸の町には、^②たくさんの商店が店を構えていたが、振り売りの声
もあふれていた。日用品のほとんどは振り売りがあつており、売
り歩いているところを呼び止めて気軽に購入することができた。彼ら
は、売ったものの修理も請け負った、さらに、修繕専門の「直し屋」
という振り売りもいた。^③直し屋は、「物」の数だけそろっており、み
なすばらしい技術をもった人ばかりだった。

(3) ー線①、「食事をするダイニングルームは町なかの屋台を利用
し」とありますが、

A このような暮らし方を何と表現していますか。文章中から三字
で書きだしましょう。

B このように暮らす江戸っ子たちの中には、何があつたと筆者は
考えていますか。文章中から十字で書きだしましょう。

(4) ー線②「日用品のほとんどは振り売りがあつており」とあり
ますが、このことから、振り売りを何と表現していますか。文章中か
ら12字で書き出しましょう。

(5) ー線③「直し屋は、『物』の数だけそろっており」とは、どうい
うことですか。



江戸っ子たちは、物の背後に、作り手、売り手、直し手の三つの顔を見ていたのである。だからこそ物を大切に使ったのである。江戸では、ほとんどの家財道具は一生もので、どんな道具でも、ごみとして捨ててしまうことはなかった。江戸の基本理念は「もつたいたない」であり、リサイクルはあたりまえという合理的な生活習慣を身につけていたのである。

江戸っ子は幼少時代から、「残る物」を購入する場合は三度考え^③て買え、としつけられた。店に通って買うかどうかを迷い、もし、その間に売れてしまえば縁がないとあきらめるのである。そして、買ったあとは、その物が形がなくなるまで修繕をくり返し、とことん使い切った。収入に比して物の値段がとても高価だった江戸では、衝動買いは最もいさめられるべきことだったのである。

(6) ー線① 「物の背後に、作り手、売り手、直し手の三つの顔を見ていた」とは、どういうことですか。

- ア 作りて、売り手、直し手がみな知り合いだったということ。
- イ 物にかかわる多くの人の存在を意識していたということ。
- ウ 江戸っ子にとって物の入手は簡単だったということ。
- エ 江戸っ子ならだれでも物を直せたということ。

(7) ー線② 「物を大切に使った」とありますが、物を大切に使う江戸っ子の考え方を端的に表した言葉を、文章中から六字で書きましよう。

(8) ー線③ 「三度考えて買え」と対照的な行動を表した言葉を、文章中から四字で書き出ましよう。



なべに穴が空けば鑄掛屋に頼んでふさぎ、さらに使えなくなれば古金屋に下げ渡して資源とした。下駄の歯が減ったら歯だけを入れ替え、鼻緒が痛んだら鼻緒をすげ替え、ついに下駄本体が割れたら薪にして燃料とした。また、浴衣であれば、少し古くなったら赤ちゃんのおしめにし、それが古くなったら雑巾に、それもだめになったらさいて縄や物に編んだり、よって鼻緒の芯にしたりした。ここまで使いきり、それがぼろぼろになって果てれば、火にくべる燃料とした。

□、江戸っ子たちは、最後に残った灰までも利用する。かまどや火鉢に残った灰は、「灰買い」という業者が買い取っていった。その灰は、畑の土をよくし、作物を大きく育てる肥料となったり、わかめなどの海産物を灰にまぶして干す「灰干し」の生産に用いられたりした。絹や綿や麻などの糸作りも、灰の汁で煮ると光沢が出てやわらかくなる。そのほかにも、酒造、紙すき、染色、洗剤など、灰は無数の用途があり、余すことなく利用された。

江戸時代の道具は、金物、木、布、紙など、^①どれも天然素材であった。金物は煮とかせば何度でも再生がきき、それ以外の物は最終的に植物性のきれいな灰となった。まめなりサイクルをする江戸の心がけもさることながら、このように、道具をはじめとする身の回りの物がすべて再利用できる素材で作られていたというのも、今の大きな違いであろう。

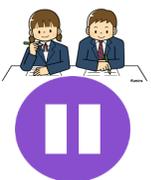
(1) 第一段落には、江戸っ子のリサイクルの具体例が挙げられています。例として挙げられている品物を、二つ書き出しましょう。

(2) □に合う言葉はどれでしょう。

ア だから イ しかし ウ さらに エ または

(3) ー線①「それ以外の物」とは、何を指しますか。文章中から三つ書き出しましょう。

(4) 江戸のリサイクル事情について、筆者が、現代との大きな違いと考えているのは、どんなことですか。二つ書き出しましょう。



物に囲まれ、豊かで便利な時代に暮らす私たちは、一応半世紀の平和の中にいる。二世紀の平和を保った江戸時代のように、あと二百年後の子孫たちは、今のわたしたちの暮らしをどう見るのだろうか。逆に江戸っ子たちが、^①こちらの側の生活をのぞいたならば、電気や、飛行機などの現代の便利な機器をうらやましがるだろうか。さまざまな想像がふくらんでくる。

二百年前の江戸の暮らしをほんの一部だけのぞいてみた。^②江戸っ子たちの暮らしぶりは、物があふれるわたしたちの生活と比較してみると「豊か」とはいえないかもしれない。

しかし、長屋暮らしという自分たちに与えられた空間の中で、物を大切にし、互いに助け合って生活していく共同意識をもっていた江戸っ子たちの暮らしには、「心の豊かさ」があったといえるだろう。

過去から現代、そして未来へと暮らしは変化していくが、人々の心は同じはずである。江戸の生活の中から、わたしたちは、今のわたしたちの「物の豊かさ」について考えることができる。そして、同時に、ともすれば忘れがちな「心の豊かさ」というイメージを受け取ることができるのである。

(1) ー線①「こちらの側の生活」とは、何のことですか。文章中から十一字で書き出しましょう。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(2) ー線②「現代」を、筆者はどんな時代だと表現していますか。文章中から十四字で書き出しましょう。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

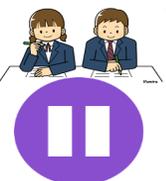
(3) ー線③「江戸っ子たちの暮らしぶり」について答えましょう。

A 今のわたしたちの暮らしと比較した場合、江戸っ子たちの暮らしには何があったと、筆者は述べていますか。文章中から五字で書き出しましょう。

--	--	--	--	--

B Aと対照的な意味で用いられている、今のわたしたちの暮らしを評した言葉は何ですか。文章中から五字で書き出しましょう。

--	--	--	--	--



江戸時代は、二世紀という長い間、平和が続いた時代である。同時代の西欧諸国が、戦乱に明け暮れながら近代を招いたのに比べれば、二百六十年におよぶ江戸の歳月は、驚異的なことだといえるだろう。

長く続いた平和は、生活の工夫に満ちた魅力あふれる「江戸」という町をつくり出した。「江戸っ子」とよばれる庶民の日常生活をのぞき、その暮らしぶりから、現代のわたしたちの生活を見つめ直してみよう。

江戸の町人たちは、狭い空間にひしめき合って暮らしていた。江戸後期の町人地の人口密度は、一平方キロメートル当たり、約六万七千人であったといわれている。これは、現在の東京二十三区の人口密度の約五倍であり、かなり窮屈な暮らしであったことがわかる。

そうした狭い町人地の中で、江戸っ子たちは、長屋とよばれる簡易住居に住んでいた。住んでいたといっても、当時の長屋は居住性を求める家というよりは、寝室として、ほとんど寝るときにだけ戻るといような場所であった。

- (1) 筆者が、この文章を通して考えようとしていることは何ですか。それが提示されている一文を、第二段落までの中から見つけてみましょう。

「江戸っ子」とよばれる庶民の日常生活をのぞき、その暮らしぶりから、現代のわたしたちの生活を見つめ直してみよう。

- (2) 線①「長屋」は、江戸っ子たちにとってどんな場所だったのですか。文章中から二十五字以上三十字以内で見つけてみましょう。

寝室として、ほとんど寝るときにだけ戻るといような場所



では、寝るとき以外の生活はどのようにしていたかという点、**食事**^①をするダイニングルームは町なかの屋台を利用し、応接間は湯屋の二階座敷、ミーティングルームは髪結い床の土間、日用品は歩くコンビニエンスストアとしての「振り売り」を利用するというふうには、八百八町といわれた江戸の町全体を自分の家のように使いこなす機能的な暮らし方をしていた人が多かったのである。そこには、人と人の広範囲で強いつながりがあった。

江戸の町には、**たくさんの商店**が店を構えていたが、振り売りの声もあふれていた。^②日用品のほとんどは振り売りがあつており、売り歩いていてるところを呼び止めて気軽に購入することができた。彼らは、売ったものの修理も請け負った、さらに、修繕専門の「直し屋」という振り売りもいた。^③直し屋は、「物」の数だけそろっており、みならずらしい技術をもった人ばかりだった。

(3) ー線①、「食事をするダイニングルームは町なかの屋台を利用し」とありますが、

A このような暮らし方を何と表現していますか。文章中から三字で書きだしましょう。

機
能
的

B このように暮らす江戸っ子たちの中には、何があつたと筆者は考えていますか。文章中から十字で書きだしましょう。

広
範
囲
で
強
い
つ
な
が
り

(4) ー線②「日用品のほとんどは振り売りがあつており」とありますが、このことから、振り売りを何と表現していますか。文章中から12字で書き出しましょう。

歩
く
コ
ン
ビ
ニ
エ
ン
ス
ス
ト
ア

(5) ー線③「直し屋は、『物』の数だけそろっており」とは、どういうことですか。

どんな物にも直し屋が存在するということ。



江戸っ子たちは、物の背後に、作り手、売り手、直し手の三つの顔を見ていたのである。だからこそ物を大切に使ったのである。

江戸では、ほとんどの家財道具は一生もので、どんな道具でも、ごみとして捨ててしまうことはなかった。江戸の基本理念は「もつたいたない」であり、リサイクルはあたりまえという合理的な生活習慣を身につけていたのである。

江戸っ子は幼少時代から、「残る物」を購入する場合は三度考え^③て買え、としつけられた。店に通って買うかどうかを迷い、もし、その間に売れてしまえば縁がないとあきらめるのである。そして、買ったあとは、その物が形がなくなるまで修繕をくり返し、とことん使い切った。収入に比して物の値段がとても高価だった江戸では、衝動買いは最もいさめられるべきことだったのである。

(6) ー線① 「物の背後に、作り手、売り手、直し手の三つの顔を見ていた」とは、どういうことですか。

- ア 作りて、売り手、直し手がみな知り合いだったということ。
- イ 物にかかわる多くの人の存在を意識していたということ。
- ウ 江戸っ子にとって物の入手は簡単だったということ。
- エ 江戸っ子ならだれでも物を直せたということ。

(7) ー線② 「物を大切に使った」とありますが、物を大切に使う江戸っ子の考え方を端的に表した言葉を、文章中から六字で書きましよう。

も
っ
た
い
な
い

(8) ー線③ 「三度考えて買え」と対照的な行動を表した言葉を、文章中から四字で書き出ましよう。

衝
動
買
い



なべに穴が空けば鑄掛屋に頼んでふさぎ、さらに使えなくなれば古金屋に下げ渡して資源とした。下駄の歯が減ったら歯だけを入れ替え、鼻緒が痛んだら鼻緒をすげ替え、ついに下駄本体が割れたら薪にして燃料とした。また、浴衣であれば、少し古くなったら赤ちゃんのおしめにし、それが古くなったら雑巾に、それもだめになったらさいて縄や物に編んだり、よって鼻緒の芯にしたりした。ここまで使いきり、それがぼろぼろになって果てれば、火にくべる燃料とした。

□、江戸っ子たちは、最後に残った灰までも利用する。かまどや火鉢に残った灰は、「灰買い」という業者が買い取っていった。その灰は、畑の土をよくし、作物を大きく育てる肥料となったり、わかめなどの海産物を灰にまぶして干す「灰干し」の生産に用いられたりした。絹や綿や麻などの糸作りも、灰の汁で煮ると光沢が出てやわらかくなる。そのほかにも、酒造、紙すき、染色、洗剤など、灰は無数の用途があり、余すことなく利用された。

江戸時代の道具は、金物、木、布、紙など、^①どれも天然素材であった。金物は煮とかせば何度でも再生がきき、それ以外の物は最終的に植物性のきれいな灰となった。まめなりサイクルをする江戸の心がけもさることながら、このように、道具をはじめとする身の回りの物がすべて再利用できる素材で作られていたというのも、今の大きな違いであろう。

(1) 第一段落には、江戸っ子のリサイクルの具体例が挙げられています。例として挙げられている品物を、二つ書き出しましょう。

なべ 下駄 浴衣

(2) □に合う言葉はどれでしょう。

ア だから イ しかし さらに エ または

(3) ー線①「それ以外の物」とは、何を指しますか。文章中から三つ書き出しましょう。

木 布 紙

(4) 江戸のリサイクル事情について、筆者が、現代との大きな違いと考えているのは、どんなことですか。二つ書き出しましょう。

- ・まめにリサイクルするように人々が心がけていたこと。
- ・身の回りのものがすべて再利用でいる素材で作られたいたこと。



物に囲まれ、豊かで便利な時代に暮らす私たちは、一応半世紀の平和の中にいる。二世紀の平和を保った江戸時代のように、あと二百年後の子孫たちは、今のわたしたちの暮らしをどう見るのだろうか。逆に江戸っ子たちが、^①こちらの側の生活をのぞいたならば、電気や、飛行機などの現代の便利な機器をうらやましがるだろうか。さまざまな想像がふくらんでくる。

二百年前の江戸の暮らしをほんの一部だけのぞいてみた。^②江戸っ子たちの暮らしぶりは、物があふれるわたしたちの生活と比較してみると「豊か」とはいえないかもしれない。

しかし、長屋暮らしという自分たちに与えられた空間の中で、物を大切に、互いに助け合って生活していく共同意識をもっていた江戸っ子たちの暮らしには、「心の豊かさ」があったといえるだろう。

過去から現代、そして未来へと暮らしは変化していくが、人々の心は同じはずである。江戸の生活の中から、わたしたちは、今のわたしたちの「物の豊かさ」について考えることができる。そして、同時に、ともすれば忘れがちな「心の豊かさ」というイメージを受け取ることができるのである。

(1) ー線①「こちらの側の生活」とは、何のことですか。文章中から十一字で書き出しましょう。

今	の	わ	た	し	た	ち	の	暮	ら	し
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(2) ー線②「現代」を、筆者はどんな時代だと表現していますか。文章中から十四字で書き出しましょう。

物	に	囲	ま	れ	、	豊	か	で	便	利	な	時	代
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

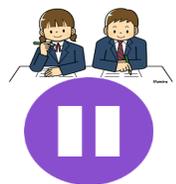
(3) ー線③「江戸っ子たちの暮らしぶり」について答えましょう。

A 今のわたしたちの暮らしと比較した場合、江戸っ子たちの暮らしには何があったと、筆者は述べていますか。文章中から五字で書き出しましょう。

心	の	豊	か	さ
---	---	---	---	---

B Aと対照的な意味で用いられている、今のわたしたちの暮らしを評した言葉は何ですか。文章中から五字で書き出しましょう。

物	の	豊	か	さ
---	---	---	---	---



出会いの数だけ人生の幅も広がる。さまざまな人の暮らしや人生にふれて、自分自身を見つめ直そう。



クイールを育てた 訓練師

たわださとる やぬきたかし
多和田悟・矢貫隆
盲導犬の訓練は
厳しいだけじゃない



訓練だけで優秀な盲導犬は育たない。犬も、人とのかわりの中に生きる喜びを見いだしている。魔術師の異名をとるまでになった一流訓練師の、苦悩と努力の軌跡を描く。

生きのびるために

デボラ・アリス
もりうちすみこ 訳
それでもわたしは
生きたい



タリバン支配下のカブール。突然、父を連行された十一歳の少女パヴァーナは「勇敢になれ」という父の言葉を胸に、一家の暮らしを支え始めた。厳しい現実と人々のたくましさを描く。

トットちゃんと トットちゃんたち

くろやなぎてつこ
黒柳徹子
地球上の子供の
85パーセント



年俵一ドルのボラテイア、ユニセフ親善大使。トットちゃんを訪れた開発途上国や紛争地では、飢えや暴力や病気に苦しむ子供たちが必死に生き延びようとしていた。

アンネの日記

アンネ・フランク
ふかまちまりこ
深町真理子
鋭い感性と
驚くべき表現力



ナチスの迫害のため、一家で隠れ家に身を潜めたユダヤ人少女アンネは、日記を通して自身を見つめ、明るさを失わずに生きた。

無敵のバリアフリー

おそどまさこ
生きる力が
わいてくる本



体に障害のある人の旅行を企画し、実際にしたトラベルデザイナーの報告。綿密な計画、不屈の意思、そして深い愛で、不可能を可能にした話。読むと心に温かいものが満ちてくる。

救急医、 世界の災害現場へ

やまもとやすひろ
山本保博
救急医療と愛で
世界は救えるか



筆者は、阪神・淡路大震災やクルド難民キャンプなどで救急医療にたずさわる外科医。戦争や自然災害の前に、人間の非力を痛感する日々だった。そんな中、筆者が強く感じたことは。

《新しい漢字》

《新出音訓》

優秀

苦悩

軌跡

年俵

勇敢

迫害

隠れ家

企画

外科医

新出漢字

新出音訓

書いて覚えなさい。

優秀 シユウ

秀 秀 秀 秀 秀 秀 秀 秀

苦惱 ノウ

惱 惱 惱 惱 惱 惱 惱 惱

軌跡 キセキ

軌 軌 軌 軌 軌 軌 軌 軌

跡 跡 跡 跡 跡 跡 跡 跡

跡 跡 跡

年俸 ネンポウ

俸 俸 俸 俸 俸 俸 俸 俸

勇敢 ユウカン

敢 敢 敢 敢 敢 敢 敢 敢

敢 敢 敢 敢

迫害 ポウガイ

迫 迫 迫 迫 迫 迫 迫 迫

隠れ家 カク

隠 隠 隠 隠 隠 隠 隠 隠

隠 隠 隠 隠 隠 隠 隠 隠

企画 キク

企 企 企 企 企 企 企 企

外科医 ゲ



漢字の学習

- (1) 優秀な盲導犬を育てる。
ゆうしゅう
- (2) 苦悩と努力の軌跡を描く。
くのう
きせき
- (3) 年俸一ドルのボランティア。
ねんぽう
- (4) 「勇敢になれ」という父の言葉。
ゆうかん
- (5) ナチスの迫害。
はくがい
- (6) 隠れ家に身を潜める。
かくれが
- (8) 旅行を企画する。
きかく
- (9) 難民キャンプで外科医として働く。
げかい



宿題

次回の授業までにやる勉強です。

1. 漢字

新しい漢字の練習をしましょう。

2. 音読

「江戸からのメッセージ」を読みましょう。

「読書案内」を読みましょう。

3. 辞典

国語辞典と漢字辞典を用意しておきましょう。



お知らせ

1. 質問があったら、メールをください。すぐお返事します。
 2. 自分が書いた文章を見てもらいたいときはメールで送って
くれば、直して送り返します。
- ❖ メールアドレスは、 Akiko@JPNCClass.com です。
 - ❖ このビデオのスライドはWebページ <http://JPNCClass.com> から
ダウンロードや印刷ができます。



JPN Class

Online school - 日本語で学ぼう

中学

国語
一年

年間学習表



身につけたい力

7月	6月	5月	4月		
		<p>発見したことを伝えよう スピーチの構成を考え、メモをもとにスピーチをしよう。</p>	<p>野原はうたう 好きな詩を、登場する生き物の気持ちになって朗読しよう。</p>	<p>一年間の学習を通して 先生の話を聞き、学習を進めよう。</p>	<p>話す／聞く</p>
<p>文章の推敲と原稿用紙の使い方 推敲のポイントと原稿用紙のうえでの推敲の仕方を知ろう。原稿用紙の決まりを確かめよう。</p>	<p>情報を文章にまとめよう 自分の身の回りのことについて、情報を集め、文章にまとめよう。</p>	<p>発見したことを伝えよう スピーチの構成を考え、スピーチメモを書こう。</p>	<p>野原はうたう 自分の好きな生き物を選んで、詩を作ろう。</p>	<p>新聞記事 記事の要約をし、記事に対する自分の意見や感想を書こう。</p>	<p>書く</p>
<p>光と風からもらった贈り物 筆者が「高原」のどんなところに、言葉の豊かさを感じているかをとらえよう。</p>	<p>クジラたちの声 クジラの情報伝達に関する二つの問いをおさえ、音の役割、海中での情報伝達に音が最適である理由をつかもう。</p>	<p>変位をとどまらぬ 各図の説明を通して、ものの見方について、筆者が述べていることをとらえよう。</p>	<p>野原はうたう 作者が生き物の姿にどんな思いを感じているかを、読み取るう。 にじの見える橋 少年の行動や心情に着目し、にじを見る前とあとの気持ちの差</p>	<p>新聞記事 新聞記事を読もう。</p>	<p>読む</p>
<p>混同しやすい漢字 形が似ていたり音が同じであったりする漢字を知り、間違えて使わないように気をつけよう。</p>	<p>言葉の単位 文節や単語に区切る方法を知ろう。</p>	<p>漢字の組み立てと部首 漢字の部分のよび名と表すものを覚えよう。</p>	<p>話し言葉と書き言葉 話し言葉と書き言葉の違いをおさえよう。</p>		<p>言葉</p>

12月 (冬休み=授業は3回)	11月	10月	9月	8月	
	<p>いろは歌 仮名のみの原文を、 古文の調子にのって 読み、聞いてもらおう。</p>				話す／聞く
<p>未来をひらく微生物 環境問題について課 題を見つけ、レポー トにまとめよう。</p>		<p>大人になれなかった 弟たちに・・・ 心に残ったこと、自 分の生活と比べてど んなことを考えたの か、感想文を書こう。</p>	<p>手紙を書こう 手紙の形式を知り、 目的や相手を考え、 手紙が書けるようにな ろう。</p>	<p>さつき 読み取った内容を、 自分自身の体験と重 ねて感想を書こう。 読書記録 読んだ本の読書記録 を書いて残そう。</p>	書く
<p>未来をひらく微生物 自然の仕組みの中で、 微生物の働きが、環 境問題の解決どのよ うに利用されている のか読み取ろう。</p>	<p>いろは歌 古文の言葉の響きや 調子に読み慣れよう。 蓬萊の玉の枝 ほららい 古典に対する興味や 関心をもって読もう。 今に生きる言葉 漢文独特の言い回し に慣れよう。「矛盾」 がどんなエピソード からどんな意味に使わ れるようになったのか 確かめよう。</p>	<p>大人になれなかった 弟たちに・・・ 表現に着目し、登場 人物の心情や作者の 思いを読み取ろう。</p>	<p>麦わら帽子 麦わら帽子やカモメ に対するマキの気持 ちと、その移り変わ りを読み取ろう。</p>	<p>さつき 助けを呼びに走る場 面や、助かった正作 を見上げる場面の、 惇の胸中を表す言葉 に注目して読もう。</p>	読む
<p>文の組み立て 文の成分のそれぞれ の働きや、文節どう しの関係を理解しよ う。</p>	<p>古典の言葉 文語と口語の違いを 考えよう。 漢字の音訓 音と訓それぞれの読 み方と、意味を考え よう。</p>	<p>漢字四字の熟語 漢字四字の意味をお さえよう。</p>	<p>漢語・和語・外来語 漢語・和語・外来語 の分類ができるよう になろう。</p>		言葉

	3月	2月	1月 (冬休み=授業は3回)	
		心に残る思いで読み手の興味を引くように、発表しよう。		話す／聞く
	言葉調べよう 言葉についての課題を調べ、資料にまとめる。	心に残る思いで、今までの経験で、自分が成長したと思えることや、変わったと思うことを思い出して、文章にまとめよう。	江戸からのメッセージ 江戸の知恵を今の時代に生かせることは何か考え、それをまとめよう。	書く
	大仏様は「にっこり」しています 外国研究者との会話を通して、説明されている日本語の特色を読み取る。 胸の底の人と言葉たち 人や言葉との出会いを読み取り、筆者がわたしたちに願うことは何かを考えよう。	少年の日の思い出 登場人物の心情の移り変わりをとらえ、生き方を考えよう。	江戸からのメッセージ リサイクルを徹底した江戸っ子の生活と、そこから導かれた筆者の主張をつかもう。	読む
〈一年生の漢字〉 一年生で習った漢字の復習をしよう。	漢字の成り立ち 漢字の成り立ちをおさえ、成り立ちで意味や読みを類推できることを知ろう。	指示する語句と接続する語句 指示する語句と接続する語句の種類や用法を理解しよう。	辞典を活用しよう 国語辞典、漢和辞典の使い方を知り、実際に様々な言葉を調べよう。	言葉